

佐藤先生、ヘアレンツキャンプの先生方、このたびは娘の復学支援に
多大なるお力添えをいただき、大変感謝しております。

娘は中学二年生の二学期中頃に体調不良で数日欠席をして、か
少しずつ欠席が増えていき、二学期後半には学校に行かなくなりまし
娘からは「本当は学校に行きたくない」と打ち明けられました。私は
娘は少し休んでいるだけ、いずれ学校に行くだらう。不登校なんかし
ない、と娘の言葉を信じたくない気持ちがあり、その頃は本気でそう
思っていました。しかし何日経っても行く気配のない娘にさうに心配が
募り、心療内科に連れていったり不登校関連の本を何冊も読みました。
そこで出会ったのが水野先生の書籍でした。まるで私や娘の様子が
書かれているかのような内容で、まさに過保護、過干渉、親の意見を
言うのが当てはまりました。やはり娘は不登校なんだと認めざるを得ず、
この状況をすくってくれるのは、こことと確信し、支援をお願いしました。
心身に症状が出始め、不安しかなかった私の話を、佐藤先生は丁寧に聞き、
分析してくださりました。今の時代は学校へ行かなくてもフリースクールなど

他の道はある。しかし学校への復学が娘にとっては一番だ。と言って
いただきました。

佐藤先生にカウンセリングをしていたからしはらくして娘に
変化がありました。不登校中はスマホやテレビを観たり好きなこと
だけをしていました。家族とコミュニケーションも取れていましたが
学校の話となると心を閉ざすようで、明るくなかった。会話が増えたなど
変化はみられたものの、復学とまではいかずでした。このタイミングで
ダイレクトアプローチに入っていたいただきました。母子家庭なので

佐藤先生、辻先生には「父性の対応」をしていただきました。そして娘は
「新学期から学校へ行く」と言いました。学校へ行かないといけないな
と思っていたようです。そして復学に向けてサポートしていただき、
中学三年生の一学期最初の日は無事登校できました。私はとても嬉しく
ホッとしましたが、重要なのは復学後の継続登校です。

復学してからは毎日登校ができます。数日登校し一日休む。数日登校し
一日休む。少しずつ欠席が目立ちました。学校を休むことで仲良く

していた友達と距離ができ、学校で一人でいることが多くなり、行きづらかったのも原因のひとつのようでした。これは学校の中での問題で、本人が解決しなければいけません。私ができることは家庭での対応です。同居している祖母も欠席が増えることをとても心配していました。特に祖母は「やっ」と学校に行けると思っていたのに、いつになったら毎日学校に行くのか、このまま学校に行かなかったらどうするつもりかなどと私に言うので、本当につらくなりました。しかし私が仕事に行っている間は祖母が食事の準備をしてくれましたし、長い時間を一緒に過ごす祖母もつらかったと思います。

そんな話も佐藤先生は聞いてくださいました。そして娘のことでは都度アドバイスをいただき、親として同じ姿勢で向き合うことに徹しました。さらに欠席が増えるのであれば再度ダイレクトアプローチをさせていただく話も出ました。すると一学期の後半から少しずつ登校が増えてきました。この頃には距離のあった友達と仲直りできたようですが、まだ登校が不安定な状態で、私としては不安が残ったまま夏休みに

入りました。夏休み中は適度な親子の距離を保てたと思います。
そして夏休み後半に、コロナで遠期になっていた修学旅行があり、
無事に行くことができていい経験になったと思います。

登校が不安定なまま夏休みに入ったので二学期のスタートは私と
してはとても心配でしたが、新学期からは毎日登校することができました。
体育大会の練習も放課後ダンスの練習をしたりと、本当によく頑張った
と思います。親として同じ姿勢で締めずに対処したことが結果に
つながったのだと思います。

現在全日制の高校に入学した娘は、クラスや共通の趣味を通してできた
友達と休日遊びに行ったり、最近ではアルバイトを始めたりと青春を
謳歌しています。私は不登校の親という経験を通して佐藤先生と出会い、
今までは違う子どもとの接し方に気づかされた。子どもを信じること、
ひとりの人として見ること、親の所有物ではないこと。私自身も変わることが
できました。まさに「親が変われば子が変わる」です。意思の弱い私を何度も
励ましてくださった佐藤先生、ペアレンツキャンプの先生方、本当に本当に
ありがとうございました。